

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902702		
法人名	有限会社 Freedom		
事業所名	グループホームプランタンV		
所在地	旭川市9条通15丁目24番地		
自己評価作成日	平成28年1月21日	評価結果市町村受理日	平成28年2月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902702-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 2 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアの理念に沿って家庭的な雰囲気を忘れずに、利用者の尊厳を遵守し不安・不満の声に耳を傾け、その都度、ご家族と相談・ご協力をお願いし、少しでも不安・不満が軽減するよう努めています。健康管理の面でも、週1回のボランティアで行われている柔道整復師による施術のサービス・毎日のテレビ体操を行っています。ご家族に利用者さんの通院ごとに現在の病状の結果報告をし、安心をして頂き、ご家族・利用者とのコミュニケーションを大切に、「その人らしさ」を基本に一人一人にあったケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25) ○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19) ○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38) ○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20) ○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37) ○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12) ○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31) ○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根付いたホームを目指し、理念に基づき日々職員・管理者は、共有する場を持ち、実践しようとしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の活動自体が乏し為、地域の付き合いの進展が難しいが、町内会・他施設2件との緊急協力要請連絡網の作成、毎週金曜日に町内会長様がカラオケに参加・地元中学校の職場体験、慰問などの交流を図り、町内会で使用できるごみステーションを設置しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献をする為の第一歩として、ホーム通信を町内会の回覧板に掲載してもらいましたが、まだ、挨拶程度なため、貢献できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	行事の予定や報告、健康管理仕方、緊急連絡網の作成をする為、地域の薬剤師・地域包括支援センターの職員・町内会の方・町内の他施設の管理者の方々の参加を頂き、意見交換をし、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の利点を生かし市役所内の指導監査課、介護高齢課、保護課、健康推進課を積極的に訪問し、情報収集に努めサービスの向上に繋げています。また、地域包括支援センターとも連絡を取りあっています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人又は他者の生命及び身体が重大な危険にさらされる場合、状態を十分に検討し、これ以外に方法が無いと判断された場合には、ご家族様にしっかりと説明し理解して頂いた上で書面による同意を得ています。玄関の施錠もドアに工夫をし、夜間帯以外は施錠をしないケアの取り組みを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員共に利用者各自の認知度、性格を熟知しており、ご家族様の心労等に理解を示しながら、虐待に及ぶことのないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が他の職員に説明しながら復習するといった形で学習の機会を持ち、必要としている方に説明し活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時などは書面・口頭による説明を行い不安や疑問を解決している、充分納得されたうえで書面上にて契約などの合意の確認を得ている、またいつでも説明できる体制になっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見が出た場合にはホーム全体の問題として考え、口頭及び申し送りノートに記載し職員全体に周知、すぐに改善していけるよう努力している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見や提案を受け入れる態勢にあり、検討し良い事は実践に移している。日頃からの交流によりアイデアや意見が出やすい雰囲気をつくりだしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の希望や職員の家族の用事などの希望を優先してシフトを作り、対応できない場合には本人と納得するまで話し合う事している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃の業務の観察を行い現在の力量を把握している。研修の案内は随時行い、本人の希望や力量に合わせて参加を促している。必要があれば勤務の変更を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループ内での研修会を行い、良いところは取り入れるなど刺激を受けている。他事業所の運営推進会議への参加、包括主催の市内グループホーム交流会、包括主催の家族会などの出席も行っています		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を理解する為にお話しのしやすい環境・関係づくりを努め、お話を傾聴し不安や要望などの訴えを聞きだすようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員から積極的にご家族様に話かけ、お話をしていく中で不安なことや要望等を聞き、解決できるように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様からの不安、要望、などを聞き、まず必要な支援をご家族様、利用者様にお話しをして、利用者様・ご家族様が安心できるような支援体制に努めている。また必要に応じ他のサービスの利用も提案していく。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のご自身では「出来ない事」に対しお手伝いさせて頂くということをお話をして理解をして頂き、利用者様が「今自分が出来る事を」を大切に考え必要以上の支援を行わず物事を達成することにより、利用者様が自信・喜びなどを感じて頂けるように努めている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ホーム通信を発行しホームの行事、様子を報告し、面会時には、本人の病状、普段の様子報告。また、家族が困っている事、悩んでいる事も一緒に考え共有し支えています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や友人がいつでも面会できる環境を整えている。又ご家族様やご友人との外出・外泊が出来るよう必要に応じて支援しています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの参加や普段の生活の中で他者との交流が図れるように支援していき、利用者様が安心して楽しく生活が出来るように努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後でもこれまでの関係性を大切し、相談や支援に努めている。必要に応じて連絡を取ったりもしています。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のお話を傾聴、お話が困難な場合はご本人様の表情・行動及びご家族様からのお話などから、今「何」を望んでいるのか「何」を困っているかを把握できるように努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からどのような生活を送ってきたか・どのような趣味趣向をお持ちかを把握し、フェースシートを作成して一人ひとりの把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の言動・表情及び心身に普段と違ったところはないか、残存機能の維持が出来ているか・機能の低下はないかを職員が注視し、必要に応じミーティングなどを行い内容は申し送りに記載し職員が周知するよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の話及び家族の意向も聞き、利用者様が今「何」を必要としているかを職員と協議・把握し、意見アイデアを反映しながら利用者様にとって必要な介護計画を作成できるように努めています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の生活状況を記録、記録したものがケアプランのどの項目であるか、もしどの項目にも当てはまらない記録がある場合はすぐにわかるような介護記録を用いてケアプランとの連動を図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市内中心部に近い利点を活かして、本人の状況により、早期通院、大型スーパー、大きな公園も近い為、買い物や外出等、柔軟な支援やサービスに取り組んでいます。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの方との交流や今まで利用していた場所の訪問の継続を家族と協力しながら交流・利用を支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、ずっと通院している病院をできるだけ継続受診できるような環境を整え、個々の医療機関とも連携を取り合い適切な医療を受けるように支援しています。			
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル、体温を測定し、排便、体調確認様子等で、気になる事は、看護師に相談、確認し早めの受診を支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を迅速に行い、医療機関に出向いて相談やこまめな連絡を取り合い、病院関係者との円滑な関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	日頃から、本人や家族と不安や要望を聞き良く話し合い、看護師とも何度も協議を重ね、同じ方針でケアを進めて行けるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等で転倒骨折の疑いのある方の確認、対応の訓練を行ったり、一部の職員を消防主催の救急救命の講習会に参加をさせたりしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定・日中想定、2パターンの避難訓練を行い迅速に避難できるようにしている。また、町内の施設、町内会との火災、水害、地震等の災害の時に連携を取り合うための連絡網を作成。地域との協力体制を築けるよう努めている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアをする際、個々に誇りや考え方が違う為、尊敬の念を忘れずに、言葉使いに気を付け声掛け、対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり表現仕方が違う為、その都度表情や態度や口調で判断し、自己決定出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日常生活の中である程度の日課はあるが、本人のペースに合わせています。他にどのように過ごしたいかはその都度可能な限り支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度、訪問理美容を利用し、服装も毎日同じ物を着ないよう支援し、本人の着たい洋服で季節に合わせた服装が出来るよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人可能な範囲で野菜の皮むきなどを職員と一緒にを行っています、食後には食器拭きのお手伝いをお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の日必要な食事量・水分量の把握し、食事・水分形態をその人に合ったものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後義歯の洗浄、自立されている利用者様には口腔ケアがしっかりと行われているかの確認、ご自身で出来ない方には職員の介助により行われている。又必要に応じ歯科との連携を図り口腔内の清潔を保てるよう支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的及び必要に応じトイレの誘導を行い、失禁などが無いよう支援をしている。テープ止めを使用する際には本当に必要かを議論し、出来る限りトイレでの排泄を行えるように努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の適量摂取に心がけ、必要に応じ医療機関及び看護師と連携し下剤の調整及び支持を仰ぎ実行している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本は曜日と時間帯は決まっていますが、必要に応じ時間及び曜日の変更を行い、利用者様が入浴を楽しんでいただき清潔を保持できるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活パターンを尊重、体調面及び必要に応じて休息して頂いている。夜間は居室の室温・寝具などに注意し安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送り及び「お薬説明書」などに薬の情報を記載し、薬のセット及び服薬の際には必ず2名の職員で確認を行い又呑み残しの無いよう口腔内も確認することによって誤薬の防止にあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合ったできるお手伝いをして頂いている、お盆を拭いたり洗濯物のシワを伸ばして頂く・縫い物等職員と話しながら楽しくできるよう工夫しています		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一年を通じて季節を感じるようなレクを考え、家族の協力を得て出かけられるよう支援していきます		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は金庫に保管していますが家族の了承があれば個人で保管し、自動販売機でジュースを購入したりしています。また、買物レクリエーションがあり職員と一緒に個人の好みの物を買物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話で家族などに電話する方もいます。現在携帯を所持及び居室に電話を引いている方はいませんが、希望に応じその都度対応しています。手紙を出したい利用者様について、はがき・切手の購入支援及び投函を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの室温及び明るさ、テレビの音などに注意し居心地の良い空間を作り出せるよう心掛けている共有スペースに季節に応じた飾り・置物を配置し季節感を味わえる空間づくりを心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを配置し居室にテレビの無い方に楽しんで頂いている、また基本座席は決まっているが食事以外では好きな席に座って頂き利用者様の交流が図れるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の家と同じような空間を作っていただけよう、出来る限り使い慣れた家具の配置、お気に入りの物・写真・絵などを飾って頂き安らげるお部屋にしているよう支援しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適切な位置に手すりを配置し、段差を出来る限り解消し安全に歩行できるよう、居室の家具の配置なども工夫している		